

令和7年度春号

赤十字いしかわ

赤十字は、 動いてる！

赤十字は、最前線に立つ人、それを背後で支える人、そして何よりも、
活動を寄付で支援してくださる人、関わるすべてのみなさん一人ひとりと動き続けています。
人間のいのちと健康、尊厳が守られる世界を信じて。これまでも。これからも、ずっと。



令和6年
奥能登豪雨災害における

赤十字 の 活動

令和6年9月に発生した「令和6年奥能登豪雨災害」。発災後すぐに現地に医療救護班を派遣し、被災地の方々のこころのケアに努め、二重被災から再び復旧・復興に向けて歩みだそうとする奥能登地域に寄り添い、活動しました。



救護班を派遣 (発災直後から延べ5班)
(石川県支部、富山県支部、福井県支部、岐阜県支部、長野県支部)



避難所で巡回診療を行う救護班
(珠洲市)



避難所で泥かきをする救護班
(珠洲市)



避難所で巡回診療を行う救護班
(輪島市)



こころのケア班を派遣
(発災後～12月中旬まで延べ11班)

(三重県支部、福井県支部、静岡県支部、石川県支部、富山県支部)



ハンドケアなどを行うこころのケア班
(輪島市)



避難所で傾聴活動を行うこころのケア班
(輪島市)



**日赤災害医療
コーディネートチームの活動等**



赤十字が支援している

救援物資 の ご紹介

令和6年能登半島地震後、被災地お届けした救援物資は、人間の生活を営む上で大切な要素「衣食住」の「住」の部分の役割を担っています。災害などの緊急時、最低限の生活が出来るように支援している救援物資について、ご紹介します。



緊急セット



令和6年能登半島地震での配布数

2,224 セット

セット内容



ご利用者の声

- 慌てて避難しているので、衛生用品はとても助かった。
- 水が出なかったため、ウェットティッシュはとても助かった。
- タオルや歯磨きセットなど細々したものはとても役に立った。



60代女性

安眠セット



令和6年能登半島地震での配布数

5,230 セット

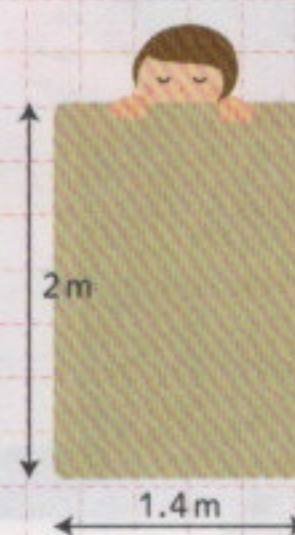
ご利用者の声

避難所では固いフロアで寝泊まりしていたため、なかなか安眠できなかったが、マットがあったて助かった。

60代男性



毛布



令和6年能登半島地震での配布数

16,005 セット

ご利用者の声

寒かったためダウン等を着こんで寝ていたが、配布された毛布のおかげで暖かった。

60代女性



被災された方に寄り添う

赤十字の活動

全国から多くの赤十字関係者が被災地に赴き、被災された方の心に寄り添って幅広い分野で活動을続けております。

リラクゼーション利用者の声

避難所生活で足がむくんだり冷えたりしていたので助かります。乾燥していた手もハンドケアでしっとりすべすべになりました。気持ちも明るくなります。



40代女性

コミュニティ作り利用者の声

避難所ではたくさんの人と一緒にいたが仮設住宅では一人。ここに来て誰かと話す機会がなかったので、こういう場所がうれしい。ご近所の方と顔見知りにもなれた。



70代女性

リラクゼーションを提供

東海北陸各県や千葉県、新潟県、奈良県、香川県、宮崎県、沖縄県といった全国の支部の職員や奉仕団が避難所や仮設住宅で足湯やハンドケア、リラクゼーションなどの活動を行いました。ストレスで緊張したところとからだをリラックスさせる効果があり、大人も子どもも誰でも受けてもらうことができます。ホッとした雰囲気の中で、お話も弾みます。

コミュニティづくりのお手伝い

仮設住宅の集会場に、住民の皆さま同士で語り合う場を設けました。お茶を飲みながら、お互いに思いを言葉に表すことで、不安やストレスの軽減につながります。そして、語る場が新しい環境での地域コミュニティづくりに役立っています。



ワークショップとキッチンカー

愛知県の赤十字ボランティアがバルーンアートのワークショップやキッチンカーでの食事提供を行いました。かほく市赤十字奉仕団も協力して、さつまいも蒸しパンや温かいうどんなどを振舞い、会場の志賀町児童館に来られた多くの子ども達に喜んでいただけました。

泥かき作業

県内の奉仕団が輪島市内でボランティア活動を行いました。昨年9月の豪雨により田んぼの水路が土砂で埋まってしまい、このままでは今年の米作りができないという方への支援でした。なかなかの力仕事でしたが、皆で力を合わせて完遂出来ました。

このような赤十字の活動は、皆さまからのご寄付によって支えられています。

支部長のご挨拶

昨年は「令和6年能登半島地震」「令和6年奥能登豪雨災害」により、県内で甚大な被害が発生しました。お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆様方にお見舞いを申し上げます。

日本赤十字社では、発災当初から医療救護をはじめ、こころのケア、給水衛生事業、救援物資の配送等、被災された方々の「いのちと健康、尊厳を守る」活動を行ってまいりました。現在もボランティア活動を通じて被災された方々に寄り添う活動を続けております。これらの赤十字活動を一層推進していくためには、一人でも多くの方々のご協力が必要です。何卒、赤十字の趣旨、活動の目的をご理解いただきまして、お力添えを賜りますようお願い申し上げます。



日本赤十字社石川県支部長

馳 浩

令和7年度予算

赤十字活動資金の使いみち

収入 ... 会費・寄付金 150,000
その他の収入 51,314
収入合計 201,314(単位:千円)

石川県支部では、災害発生時の救護活動だけではなく、平時から防災教室や救急法などの講習普及事業、ボランティアの育成など、人々の「いのちと健康、尊厳を守る」活動に取り組んでいます。

赤十字奉仕団の活動

「困っている・苦しんでいる人の役に立ちたい」という思いを持つボランティアが、様々な活動で赤十字を支えています。

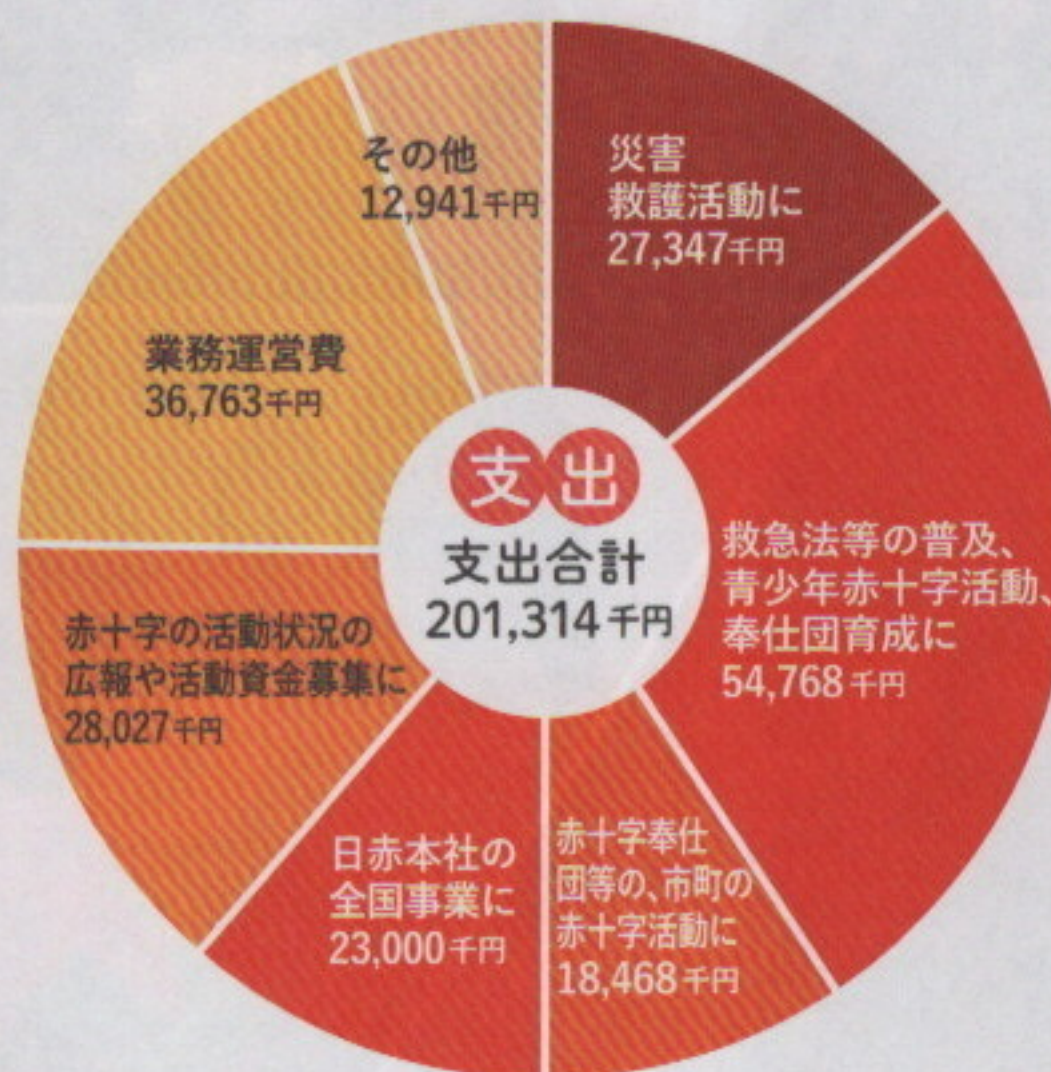


義援金と赤十字活動資金のちがい

「令和6年能登半島地震災害義援金」等の**義援金**は、日本赤十字社が受け付けた**全額**を被災県が設置する災害義援金配分委員会へ送金しております。赤十字の活動は**赤十字活動資金**によって支えられています。



赤十字活動資金へのご寄付はこちらから



赤十字病院、血液センターは施設ごとの特別会計になっており、この予算には含まれていません。

災害救護活動

災害時、いち早く医療救護班を派遣し、救護活動を行うほか、訓練や救援物資の備蓄など、常日頃から災害に対応できる体制を整えています。



救急法等の普及

とっさの手当てや日常生活での事故防止などを目的に講習会を開催しています。また学校教育を通して子どもたちにいのちの大切さを伝えています。



石川県支部の活動をぜひご覧ください

石川県支部
ホームページ



Facebook



X(Twitter)



Instagram



日本赤十字社キャラクター

ハートちゃん

石川県観光PR
マスコットキャラクター
ひやくまんさん

石川県支部オリジナルピンバッジ
@2013 石川県 ひやくまんさん #0937

日本赤十字社 石川県支部
Japanese Red Cross Society

〒920-8201 金沢市鞍月東2丁目48番地 石川県医師会・日赤共同ビル1階
TEL:076-239-3880 FAX:076-239-3881
<https://www.jrc.or.jp/chapter/ishikawa>

